

第46回 交流会（総会）報告

昭和51年卒 藤里 宜丸

1. 開催日時 平成28年5月28日（土）

13:00 ～ 18:00

2. 開催場所：横浜国立大学 理工学部食堂 第二食堂

3. 出席者：会員及び来賓

（総会65名、パネル討論会66名、懇親会63名）

4. 総会

（13:00 ～ 13:50）

（1）第46回弘陵造船航空会交流会（総会）は平成28年5月28日（土）13:00より執り行われました。総会運営は事務局の指導・応援の下、総会担当年度のクラス幹事である藤里宜丸（昭51年卒）、岩井 潮（昭61年卒）、南真紀子（平8年卒）、萱島孝一（平8年卒）、川橋強（平28年卒）が担当いたしました。

（2）開会の辞に続き、昨年の総会以降に事務局に連絡のあった34名の逝去された方の氏名を紹介し、出席者全員で黙祷を捧げました。

（3）会長挨拶（平山会長）

本日はご出席まことにありがとうございます。総会は年1回の行事ですが、課題等の審議に実質的な時間が十分取れないので、毎月の総務会、年4回の役員会、年2回のクラス幹事会で課題や事案を審議しています。クラスを超えた同窓会は意識的に交流を促進しないと成り立たないとの観点から、総会は交流を主体とした企画にシフトしてきました。今日も総会の時間がタイトになるので、ご理解ご協力をお願いします。

さて、3.11後、日本列島は大地変動の時代に突入したとも言われ、昨今なるほどと思わせる事象も起きているようにも思いますが、今こそ日本の知力を結集してそういった事態・事象に立ち向かうべき時期だと思います。しなやかな竹や柳のように強大な力をうまく流す知恵を出せばよいのだと思います。当同窓会の母体である船舶・海洋・航空・宇宙分野もエネルギー輸送、再生可能エネルギー開発、地球や海洋観測といった点で貢献してきましたが、今後ますますの貢献が期待されております。同窓会は先頭に立って知力を発揮していただく大学をサポートできる組織でもあると思います。知力を結集するには人材を育成する課題がありますが、人はどのような状況で育てられるのかという観点から本日はパネル討論会を企画しています。ほかに水槽見学、帆船模型展示、ギターとチェロの演奏会懇親会を企画していますので、大いに考えて頂き、大いに交流を深めて楽しんでいただければと思います。簡単ですが私の挨拶とさせていただきます。

（4）来賓照会

来賓として横浜国立大学学長・長谷部氏、横浜国立大学副学長・森下氏、横浜国立大学事務局長・山口氏、横浜三工会会長・上ノ山氏、名教自然会会長・井上氏、名教就美会会長・永井氏、国大化学会会長・平井氏が招待されました。

（5）竹川理事より平成27年度活動報告及び会計報告（平成27年度教室支援基金会計報告含む）が、斎藤監事より平成27年度会計監査報告（平成27年度教室支援基金会計監査報告含む）が行われ、会員出席者により承認されました。

また、竹川理事より平成28年度活動計画および予算案が提案され、承認されました。

（7）平山会長より会費納入についての内規変更（理事会マター）の報告が行われました。

(8) 平山会長より平成 28 年度役員人事が提案されました。会長に角洋一名誉教授、副会長に珠久正憲氏、総務担当理事に阿部孝三氏、中島清隆氏が新任、平山前会長は相談役、加戸正治氏は監事、松村純一氏は総務アドバイザーに就き、斎藤敏郎氏と山下誠也氏は退任、その他の方々は留任との提案がなされ、承認されました。

(9) 来賓代表挨拶 (長谷部学長)

弘陵造船航空会第 46 回の開催おめでとうございます。この会が伝統のある、また、活発に本学の学生の支援を中心にご尽力して頂き、学生について本当に意義のあることをして頂いていると思っています。

この 1 年間、色んな地域、企業、政府の方々と話をし、どこでも「横浜国大は国際交流が売りだね」と言われますが、横浜に国際交流の盛んな大学があることをもっとアピールしていきたいと思っています。その国際交流の実績或いは伝統となった中興はおそらくこの弘陵造船航空会の皆さんのお力が大きかったと思います。

本学では統合的海洋教育・研究センター「海センター」と連携して日本、中国、韓国と連携して教育プログラムを考えるという事業を文科省の補助金事業の 1 つの「世界展開力」に今トライしている最中です。成功を目指して執行部も力を入れています。

昨年 11 月、フィンランドのオール大学に行きましたが、そこにツレー研究所があり、フィンランドだけでなく北欧でも有名な総合的な極地研究所であり、そこでは ITC を活用した海におけるナビゲーションシステムの開発、海洋沿岸を含めた資源開発、海底ケーブルを北極海に設置するという意欲的な内容が含まれております。本学もこの伝統ある造船の強みを生かし、是非、他分野と連携して、そのような試みをして欲しいと思っています。

大学全体としても、同窓会の皆さまの力が重要だと思っています。昨年度、交流会という形で横断的にするという試みが始まり、今後歩きながら考えるべきことが多々あると思いますが、分離融合というのは同窓会レベルでもいえることで、今後、大学の発展のためにも皆様方の力を是非ひとつにして大学全体の活性化に繋がりたいと思いますので、今後ともよろしく願います。本日の総会、懇親会が盛会となりようご祈念して私の挨拶とします。

(10) 教室の近況及び弘陵賞推薦報告が日野教室代表理事より行われました。

昨年度の卒業式、終了式は 3 月 24 日、大学院の終了は 23 名、博士 4 名、学部の終了生は 28 名でした。卒業生、終了生の針路の詳細は会報に掲載しています。入学式は 4 月 5 日、大学院に 25 名、学部は 37 名でした。

29 年度から海洋空間システムデザイン教室は建築都市・環境系学科から機械・材料・海洋系学科に変わります。大学院の改組は今後行われます。

最後に今年の弘陵賞は辰田一樹さんの卒業論文「曲げと軸力を受ける十字継手の疲労強度に及ぼす板厚効果に関する研究」(指導教官は岡田教授)に授与されたことが報告されました。

(11) 加戸理事より、その他一括報告として、以下の報告が行われました。

①「知恵の泉 (第 4 号)」企画実施報告

知恵の泉 (第 4 号) 今年発行する方向で進められています。今回はサバイバル特集として災害或いはご自身が命の危険に曝されたというような貴重な体験を報告・投稿していただく企画で、現在 17 名から 19 の原稿が届いています。さらに 4 名程度の原稿が見込まれているそうです。斎藤敏郎氏を中心に編集委員が鋭意作業を進めており、8 月頃に会報と一緒に届けられる予定です。

② 会報第 56 号目次

会報は例年通りの目次構成です。松村純一氏、山下誠也氏が編集の取りまとめを行っており、8月に発行を予定しています。

③ クラス幹事会

毎年10月と3月に各年次のクラス幹事が集まって、弘陵造船航空会の活性化のための議論、或いはアドバイスを頂いていますが、3月のクラス幹事会で本同窓会のロゴマークが決まったので報告します。ロゴマークは教室のロゴマークと合わせて平川先生にデザインして頂いたもの、今後利用していく予定です。(さらに平山前会長よりデザインの詳細について説明がありました。)

以上をもって、第46回弘陵造船航空会総会は閉会しました。

5. パネル討論会

(14:00 ~ 15:50)

パネル討論会は「私の履歴書 ー実体験と環境が人を育てるー」と題し、司会の角新会長によるパネリスト紹介によって開始されました。パネリストは珠久正憲氏(昭45年卒)、森下信氏(昭53年卒)、坂下広朗氏(昭55年卒)及び日野孝則氏(教室代表理事)の4人で、「産・官」の卒業生に期待する人物像と、それを育てる「学」との連携のあり方について、熱心な議論、提言が行われ、時間も大幅に延長されました。

今回講演された4名の方々の原稿は事務局に預け、会報に掲載されることとなりました。

6. アトラクション

(15:50 ~ 16:20)

アトラクションとして、昭48年卒の中島清隆さんと昭50年卒の田村邦夫さんによるギター・チェロ演奏会、水槽見学、帆船モデル展示がありました。特にギター・チェロの演奏はいつときの安らぎを与えて頂きました。

7. 懇親会

(16:20 ~ 18:20)

懇親会は南さん(平8年卒)の司会で、角新会長の挨拶、氏の来賓挨拶で開会し、小野相談役(昭38年卒)のご発声で乾杯致しました。懇親会では旧知の方や懐かしい方々との談笑、また、初めての方との自己紹介や仕事の話など2時間ほどがあっという間に過ぎました。最後に全員で学生歌を斉唱し、坂下広朗氏(昭55年卒)による一本締めで懇親会の中締めとし、全員で記念写真を撮影しました。

本交流会の報告を終えるに当たって、平山前会長、角新会長はじめ役員の方々から多大なご指導・ご支援を頂き、なんとか総会、パネル討論会、懇親会を終えることができ、担当クラス幹事を代表して厚く御礼申し上げます。これからも本会の活動に微力ながら尽くしていきたいと思っております。